

室町を掘る -室町遺跡第14地点の調査から-

1. はじめに

今回ご紹介する室町遺跡第14地点は室町二丁目に所在しており、発掘調査は集合住宅建築工事に伴って実施されました。調査期間は令和4年9月5日から令和4年10月7日までで、調査面積は412 m²です。

2. 室町遺跡と小倉城下町

室町遺跡は現在の小倉北区室町一帯に広がる遺跡です。ここでは昭和63年に実施された第1地点以降、様々な開発に伴って断続的に発掘調査が実施されてきました。これまでの調査では近世の遺構や遺物が多く確認されています。それは、一帯が城下町の一角であったためです。

慶長七年(1602)、初代小倉藩主細川忠興によって整備が始められた近世小倉城下町は、紫川を挟んで東西に大きな区画を設けます。そして、その西側の区画を西曲輪、東側の区画を東曲輪と呼んでいました。西曲輪の大部分は南北方向に延びる標高10m程度の低い台地上にあり、天守をはじめとする城郭の主要施設や重臣の屋敷地などがありました。一方の東曲輪は低く起伏のない地形となっており、侍だけでなく多くの町人が居住しました。

室町遺跡はこのような構造をしていた城下町のうち、西曲輪の北東端部付近に位置しています。なお、幕末頃に描かれたとされる『小倉藩土屋敷絵図』によると、この辺りは東西に延びる長崎街道を挟んで南北に町屋が建ち並んでおり、東端部は街道の起点である常盤橋に接続していました。今回の調査地点はその常盤橋の正面にある「御客屋」の敷地内に位置しているものと考えられます。

3. 調査の成果

今回の調査では、まず表土直下に焼土層が確認されました。小倉藩は慶応二年(1866)の第二次長州征討戦において劣勢となり、自ら城に火をかけ香春へと撤退します。その火は西曲輪一帯に広がったとされており、検出された焼土層は、この自焼時に形成されたものと考えられます。そして、この焼土層の下から少なくとも3面の遺構面が確認されました。

上面は焼土層直下の近世の遺構面です。ここからは石組井戸、石列、溝状遺構、ピット、瓦溜り等が検出されました。これらの中には「御客屋」に関連する遺構も含まれているものと思われませんが、全体的に遺存状態が悪く、詳細は不明です。



遺跡の位置 (1/25,000)



調査区全景 (東半部 左が北)



調査区全景 (西半部 左が北)



2号焼土面 (中面 東から)

また、この面は近代になっても利用されており、明治期後の遺構が多く混在していました。

中面は現在の地表面から約1m下にあり、部分的に焼土面が広がっていました。確認された遺構には溝状遺構、土坑、ピット、埋甕、礫群などがありますが、いずれも断片的で具体的な建物配置などを復元することはできませんでした。出土遺物には輸入磁器、陶器、土師器等があり、これらから16世紀頃、いわゆる戦国期の遺構面と考えられます。また、スラグや溶解炉の炉壁等、鑄造に関係する遺物が出土することも特徴としてあげられます。

下面は中面のさらに約60cm下方、標高約2mの地点で検出された遺構面です。これは紫川河口部に形成された三角州に由来する砂丘面であり、ここからはピットなどの遺構が確認されました。出土遺物には13世紀代に比定される青磁碗などがあり、この頃の遺構面と考えられます。

これらの調査成果は、紫川河口の砂丘であったこの地が中世以後に利用され始め、戦国期から近世へと継続していく様子を示しているといえるでしょう。

4. おわりに -室町を掘る-

これまでの室町遺跡の発掘調査では、弥生時代や7～8世紀頃の遺物も確認されています。しかしながらこれらは散発的で、明確な人の営みが確認されるようになるのは中世以降であることが明らかになってきました。また、中世には埴塙や鑄型といった鑄造に関係した遺物が多く出土しますが、これは小倉鑄物師と呼ばれた鑄造技術者集団に関連するものであることが分かっています。戦国期には輸入磁器が多くみられ、小倉津と呼ばれた港町であった当時の様相を彷彿とさせます。その後、近世には城下町に関連する様々な遺構が確認できます。

このような歴史の変遷をたどる室町遺跡ですが、今回の調査でも同様の成果が認められました。小倉城下町の発掘調査において、中世から近世にかけての状況が明確に確認できる遺跡は、現在のと



3号井戸完掘状況（中面 北東から）



3号礫群検出状況（中面 北西から）



円礫溜り検出状況（中面 東から）

ころ西曲輪北半部に限られています。室町遺跡はその数少ない遺跡の一つであり、城下町の形成過程を考えるうえで重要な遺跡と言えるのです。

埋 蔵 文 化 財 通 信

埋蔵文化財調査室では、令和6年度に入って八幡西区の菅原神社遺跡、小倉南区の貫・裏ノ谷遺跡第2地点、城野石橋遺跡、門司区の旧門司駅舎跡等で発掘調査を行いました。これらの最新の発掘情報などは、ホームページにて公開していく予定です。また、イベント情報なども随時アップする予定です。是非、ご覧下さい。

なお、イベント情報は市政だよりでもお知らせしております。あわせてご利用下さい。

公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
埋蔵文化財調査室

編
集
・
発
行

〒803-0816 北九州市小倉北区金田一丁目1-3
TEL(093)582-0941 FAX(093)582-8970

北九州市都市ブランド創造局文化企画課

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1
TEL(093)582-2391 FAX(093)581-5755

発行日 令和6年12月24日

ホームページ

北九州市の埋蔵文化財

検索